

## 在宅検査技師の関わる在宅医療実習

◎井越 尚子<sup>1)</sup>  
女子栄養大学<sup>1)</sup>

**【背景と現状】**臨床検査技師教育カリキュラムや臨地実習ガイドラインが、現在の社会と医療情勢に合せ数十年ぶりに見直された。臨床検査の高度化・多様化した知識や技術修得だけではなく、チーム医療に関わる立場と責務を心得て、協働する姿勢と適切な接遇がそなわった人材の育成が課題となる。臨地実習の項目では、チーム医療に関する実習は『必ず見学させる行為』となったが、『在宅や介護といった訪問診療』については、実習受入れ機関と養成校の方針に委ねられ、あくまでも任意の形である。そして、教育の場においては、認知症や在宅医療を始め、多くの教員にとっては未知なる分野への対策と挑戦と察するが、今後の在宅医療に関わる臨床検査技師の育成に繋がることは間違いないと確信する。

今回ここに紹介する実習の根本には、本校の特徴である栄養士資格をもった臨床検査技師の活躍の場として、2015年から在宅医療をテーマに卒研究生と共に積み重ねた調査・研究がある。この実習の実現は、各在宅医療機関の理解と協力、在宅検査技師の存在あつての同行研修が叶ったもので、実績と成果を踏まえた『医療コミュニケーション実習』として組み立てている。

**【実習概要】**臨地実習の依頼先では在宅医療・訪問診療に臨床検査技師が関わっていないため、臨地実習とは分け、また臨地実習前に14回の2限続きの構成を基本として実施する。下記⑥~⑪では専門分野の講師からの指導で、ロールプレイの実践練習の参加型実習である。

**【実習内容】**

- ①臨床検査技師業務の把握とチーム医療の理解、      ②社会人としてのマナーと接遇
- ③対話と傾聴、ノンバーバルコミュニケーションの実践、      ④検体採取や持続皮下グルコース検査、ポケットエコー検査、骨密度検査の説明と実践、      ⑤認知症検査の説明と実践
- ⑥看護実習：看護師教員から学ぶ患者接遇の事例と実践
- ⑦介護実習：社会福祉士教員から学ぶ車椅子の扱い方と移乗法の実践
- ⑧接遇実習：地域住民対象に骨密度測定と結果説明と食事や運動の紹介の実践
- ⑨フィジカルアセスメント実習：看護師資格を取った臨床検査技師講師による現場体験と実践
- ⑩バイタルチェック実習：在宅検査技師による現場紹介と実践
- ⑪在宅医療に関する事前学習（地域包括ケアシステムの理解、在宅医療関連動画・ビデオ視聴）
- ⑫学外実習（1名か2名1組で在宅医療機関にて半日体験）
- ⑬学外実習のまとめと報告会、      ⑭振り返り

⑪の在宅医療に関する学外実習前には、卒研究生による調査に基づいて作成された動画やビデオを視聴し学習させる。学生の視点や意見を把握するため、意識調査アンケートを実施し、実態を把握しておく。実習先は学生の希望を主に、割り当てる。学外実習実施は学内ルールに則り、依頼先には依頼書、契約書、個人情報遵守に関する誓約書一式と実習費も揃え、評価も依頼する。

**【実習上の注意】**学外実習は学生一人一人の自覚が最も重要である。在宅医療機関の状況と患家や施設訪問も考慮に入れ、臨地実習配置以上に注意を払う。訪問前には、多職種が揃って、報告や連絡などの打ち合わせ、訪問計画や準備など含め、限られた人数で行っていることから、医師始めスタッフへの負担を避けたい。本校の場合、栄養士のための校外実習の経験を活かしてもらおうが、在宅医療に関する意識調査結果により個人指導も行う方が良い場合がある。

**【実習の効果】**可能性を秘めた将来の臨床検査技師たちにとって、様々な活躍の場があることを発信し体験させることは非常に有用と考える。これまでも意識変化や目標や高みを目指すなどの効果を体験している。在宅医療実習を通し、実態に触れ、医療人として広い視野を持ち、多様性ある臨床検査技師としての将来を支援できると期待するものである。連絡先 049-289-0458